

IV. 草原再生応援団づくり

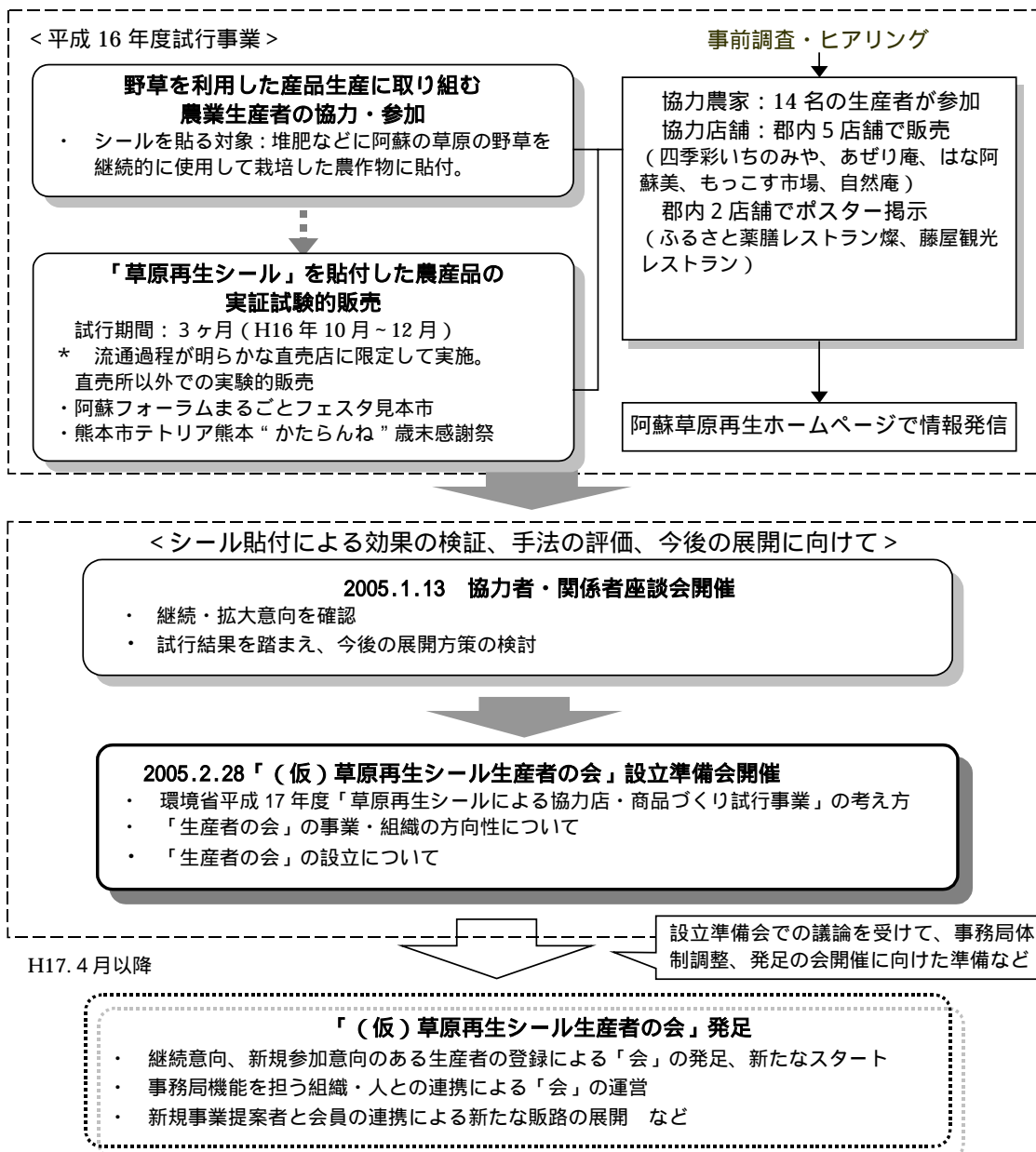


草原再生シール

1. 事業の目的と内容

本事業は、草原の野草利用を促進するとともに、地元生産農家や消費者が積極的に草原再生に関わることでできる仕組みづくりを検討することを目的とし、まず「草原再生シール」を作成・配布し、3ヶ月間、一定のルールの下でこのシールを貼った商品を流通させる試行事業を行った。その結果を踏まえ、関係者による座談会等を行い、この企画の有効性や実現性を検証した。

2. 事業の流れ



3．試験的販売の概要

(1) 試験的販売の概要

平成 16 年 10 月 1 日から 3 ヶ月間にわたり、草原の野草を生産過程で使用している 14 名の生産者と流通過程が明らかな 5 つの直売店の協力のもと、草原再生シールの試験的販売を行った。そして、この取り組みを広く知ってもらうため、草原再生ホームページでの取り組みの紹介と協力生産者及び直売店の紹介（生産者の紹介では、草の入手方法や使用方法も紹介）、協力直売店及び 2 軒の飲食店でのチラシの配布とポスターの設置、阿蘇フォーラムまるごとフェスタと熊本市内のアンテナショップ「かたらんね」でのキャンペーン販売を行った。このほか、取り組みの有効性や実現性を検証するため、協力者へのヒアリング、消費者へのアンケート調査を行った。

(2) 試験的販売の結果

これらの取り組みの結果、生産者からは「『かたらんね』でのキャンペーンで購入した方から直接注文があった。今後も月に何回か販売させてもらえる形があるといい。」「シールが貼ってあるとお客さんも関心を持ってくれるので、楽しんで貼っている。」、直売所やレストランからは「熊本市内や大分の人々が草原再生シールに対して興味をもっていた。」「草原再生シールのポスターを貼ってから、お客さんが比較的多くなった」、消費者アンケートでは、回答者の約 9 割が「草原再生」に興味を示し、今後の購入意向については「草原再生に貢献できるから購入」が約 4 割、大半の消費者が「高くても購入する」と回答するなど、効果があったことがわかった。また、消費者アンケートからは「初めて知りました。もっと阿蘇の草原のことを知りたくなりました。」「子どもを持つ親ならば誰でも、次の世代へ素晴らしい草原を残したいと思う。」など、取り組み自体のアピール効果だけでなく、地域の再認識を促す効果があることもわかった。また、「もう少し徹底して貼った方がよい。貼っている商品が少なすぎる。」「ジャスコに近場の農家が直接卸している。それを超える鮮度や栄養価が P R されれば購入する。」など今後継続するに際しての課題もみえてきた。

4．今後の展開に向けての関係者協議結果

(1) 座談会（2005.1.13 開催）開催結果

草原再生シール貼付による効果の検証、手法の評価、今後の展開に向けて検討するため、今回の試行に参加した協力農家、協力店舗等 13 名の出席のもと、意見交換を行い、取り組みの継続、拡大意向が確認された。例えば、消費者の反応が良かったことなどから都市部への販売も視野に入れたいという意見が出される、シールに興味を持つ生産者が新たに出てくるなどの効果がみられるなど、試行の成果があったといえる。座談会で

は、今後の取り組み継続に向けて次のような意見が出された。

- (販路の拡大) 都会の人ほどシール商品の価値を理解し、多少高くても購入してくれる可能性がある。福岡や熊本市内での販売も視野に入れることが必要。
- (生産者の拡大・協力) 今の生産者の人数では、広範囲に流通させることは難しい。生産協力者を増やし、シールが浸透するまで地道に取り組む必要がある。
- (シール商品の高付加価値化・事業としての成立) シール代やPR費等の経費を賄うことに加え、利益もあがり、事業として成立するしくみづくりが必要。
- (組織づくり) 取り組みを継続・展開するためには、地元の人々の意思によりつくられた組織が必要。また、今後10年後若い人が魅力を感じて参加してもらえるよう、成果を残していくことを目標に頑張っていける組織が必要。
- (基準づくり) シールの価値を維持するために使用の基準を明確にすることが必要。野菜だけでなく、漬物などの加工品の扱いなども検討する必要がある。
- (情報発信) シールの存在や趣旨について生産者や消費者にうまく情報発信ができるしくみが備わらなければいけない。
- (農業の新しい展開を) 阿蘇には野草というものすごい資源があり、土が生きている。今回のシールを活かして都市に出荷し、消費者と結びついた「顔の見える農業」の展開につなげたい。
- (ゆっくりと着実に) 1年や2年では効果は出ない。1年位は現状維持のままで行動を起こし、良くなったとき行動を広げていくことが重要。売れなくても我慢。
- (環境省の支援) 当面1年間くらいは環境省が支援できるかもしれないが、うまく地元の取り組みとして動いていくように、引き継いでいかなければならない。

これらを受け、今後の展開に向けて事務局から次の提案を行った。

- 熊本市内や福岡への共同出荷から取り組んでみてはどうか。
- まずは、この会を組織立ち上げの準備会と位置付け、「(仮)草原再生シール生産者の会」に発展させてはどうか。そのメンバーについては、今後検討が必要。

(2) 「(仮称)草原再生シール生産者の会」設立準備会(2005.2.28開催)の開催

上の座談会において、草原再生シールの取り組みを継続・拡大していきたいとの意向が多く出されたが、展開にあたっては地域での自主的な取り組みが必要なことから、地元農家を中心とした「(仮称)草原再生シール生産者の会」を設立することを目指すこととし、その準備会を開催した。

会には、取り組みに興味を持った農家の方の参加も含め総勢18名の関係者が出席。

まず環境省が平成17年度試行事業の考え方を説明した後、「生産者の会」の目的と性格、事業、会員の範囲、会の運営・管理等について議論、「生産者の会」の事業・組織の方向性について合意され、今後、発起人を中心に準備を進め、平成17年5月以降に活動がスタートする運びとなった。

草原再生シール生産者の会の目的と性格

- ・阿蘇の草原の野草を堆肥等に使った農産物を生産し、環境省事業の趣旨も含めて、シールの活動に賛同する生産者の集まりとする。
- ・会員は、野草を利用した農産物生産に努め、それにより草原環境保全に貢献していく、という共通認識のもとで、シール貼付商品の生産、流通を進めていくものとする。
- ・会は草原再生シールを使った取り組みの推進、シールの信頼性の確保、シールの発行・管理を行う主体となる。

5. 「阿蘇草原再生シール生産者の会」を中心とした平成 17 年度事業の展開イメージ

平成 16 年度試行事業の成果に基づき、シール貼布商品の生産者の拡大と販路の拡大という課題解決のために「草原再生シール生産者の会」を発足させる。生産者の会では、シールの趣旨の普及を通じた阿蘇の草原環境保全・再生に貢献する人の拡大、さらに、シール商品の高付加価値化を通じた野草の循環利用の拡大を目指し、農協や直売店、地元 NPO などとの連携を図りながら、シールの発行・管理、信頼性の確保、普及活動を行う。会員は生産者の会が発行するシールを利用して、それぞれの販売ルートで商品を流通させるが、会の支援の下、共同で新たな流通拡大に取り組んでいくことも考えられる。

ただし、取り組みは緒についたばかりで、体制の強化が目下最大の課題ともいえ、少なくとも平成 17 年度は、環境省の試行事業として支援しながら、取り組みを進めることが求められる。

